

金沢市議会先駆け 各地で採択

遺骨土砂反対 広がる意見書

金沢市議会が沖縄戦戦没者の遺骨が混入した土砂を埋め立てに使わないことを求める意見書を全会一致で可決し、これが沖縄県内のメディアに取り上げられ、話題を呼んでいる。意見書の採択は、金沢市議会をさきがけとして沖縄以外の地方議会に広がっている。提案者となった金沢市議は「本土で大きな輪になれば」と期待している。(小佐野慧太、加藤豊大)

これらの動きは、米軍普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)の移設に伴う名護市辺野古の新基地建設で、沖縄戦の犠牲者の遺骨が残る本島南部の土砂を埋め立てて使う計画が持ち上がったのが発端となった。

金沢市議会の意見書は▽遺骨混入土砂を使わない▽政府が戦没者の遺骨収集を

する一を要望。「遺骨が入った土砂を埋め立てに使用することは遺族の心を傷つけるもので人道上許されない」と指摘している。

金沢市議会の意見書が二十一日に採択されると、翌日朝刊で「沖縄タイムス」が「沖縄県以外の都道府県議会や市町村議会では初めてとみられる」と報道。

意見書と請願書 意見書は、地方議会などが議決に基づき、国や国会などに意見を述べた文書。請願書は憲法16条で定める請願権に基づき、国民が国や地方公共団体に意見や希望を述べるために提出する文書。請願には議員の紹介が必要で、一般的に陳情より重く扱われる。意見書の提出を求める請願が可決されれば、意見書が採択される。

「琉球新報」も「珠洲市でも市民運動をきっかけに意見書採択の動きがあるという」と伝えた。沖縄県によると、沖縄戦犠牲者の名を刻んだ「平和の礎」(沖縄県糸満市)には石川県民千七十二人、富山県民八百七十六人の名がある。

意見書は、社民党などの市議でつくる党派「みらい」と、日本共産党市議団が別々に提案。高校三年間を那覇市のフリースクールで過ごした坂本菜の花さん

菜の花さん「議論プラスに」

石川県珠洲市議会は三十日、「沖縄戦戦没者の遺骨を含む土砂を使用しないよう(国に)求める意見書の提出を(市議会に)求める請願書」を継続審査とすることを決めた。請願書を提出した坂本菜の花さん(二二)は「時間をかけて議論してもらえるとプラスに捉えたい」と話した。

九月定例会で採決され、採

珠洲は請願継続審査

採られれば意見書が議会議案として提出され採決される見通し。

請願書については、二十八日の市議会総務教育委員会でも審議。議会関係者によると、委員六人から反対意見はなかったが「さらに情報収集してから慎重に判断するため継続審査が適当」と決めた。

請願書の紹介議員の三益三

千三市議(メ)自民、四期は「戦没者の遺骨は遺族に返すべきだ」という人道上の問題だ。党派を超えた議論を通じて、市議会として今後適切な結論を出したい」と話した。

請願書は坂本さんら請願人十一人が連名で、市内外の計三百二十四人から集めた署名を添え六月七日、市議会に提出した。

沖縄 協力に感謝

沖縄で40年近く自発的に遺骨を収集している具志堅隆松さん(67)は、意見書可決の動きに謝意を示した上で「基地建設の賛否を問うものではなく、人道上の問題だ。これ以上戦没者と遺族の心を傷つけないよう、全国で声が上がってほしい」と話した。

新基地建設に賛成の議員の賛同も得るため「辺野古」の文言のない「みらい」の意見書に一本化し、全会一致で可決された。山本議員が社民党本部に働き掛けたこともあり、金沢に続き大阪府茨木市、吹田市、東京都小金井市でも意見書が採択されている。坂本さんは「政治的な立場とは切り離して議会が一つになつてくれてとても心強い」と話した。